

経営比較分析表（令和4年度決算）

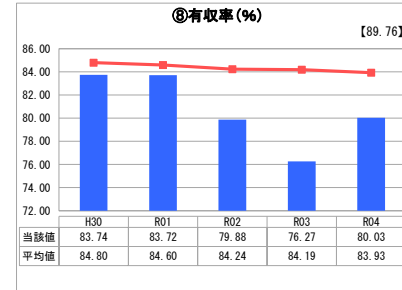
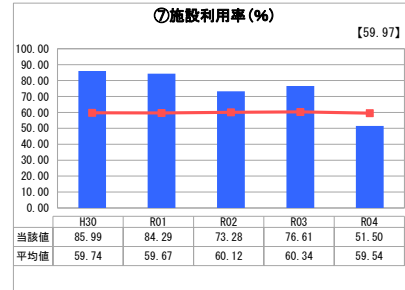
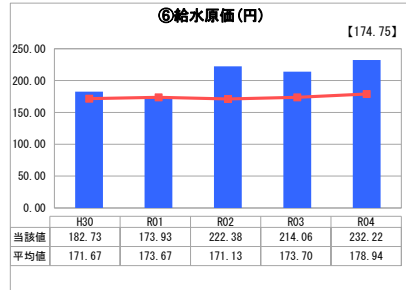
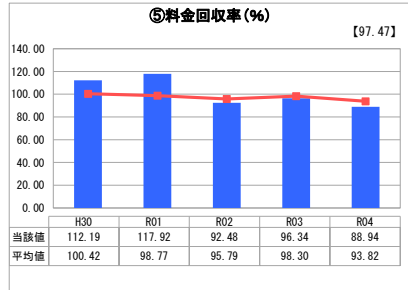
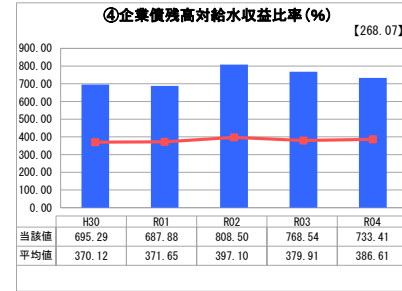
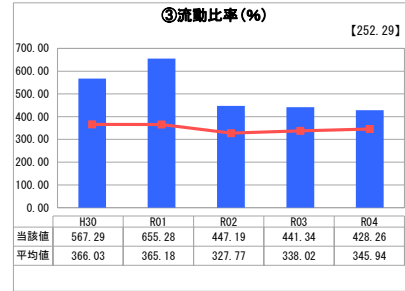
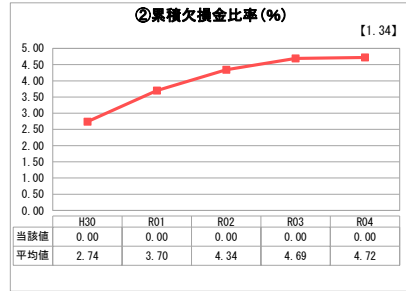
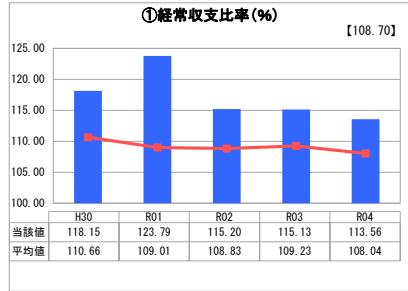
福島県 二本松市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	61.75	88.08	2,530	

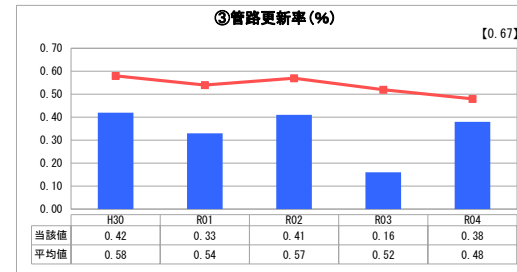
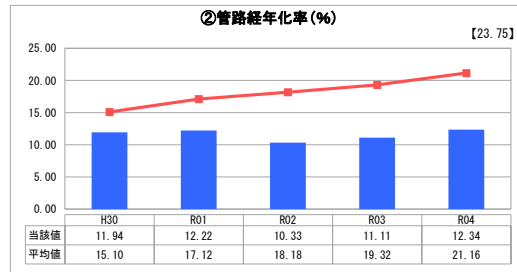
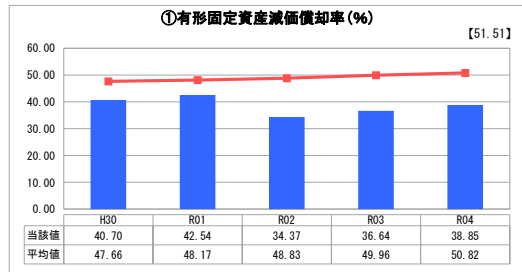
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,162	344.42	151.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
45,631	161.16	283.14

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、給水収益及び基準内一般会計繰入金等の収益で維持管理費及び支払利息等の費用を賄っており、当該値は100%を超え黒字経営であることから健全経営を保っております。しかし、長期的には水需要の減少に伴う給水収益の減少や老朽施設の修繕及び更新に要する費用などの増加が見込まれることから、今後より一層の経営効率化を進め、収益性の確保に努める必要があります。

累積欠損金比率については、純損失（赤字）がないことから当該値は0%であり、健全経営を保っております。

流動比率については、当該値は100%を上回っていることから、短期的な債務に対する支払い能力を有し、十分な流動資産が確保されており、短期的な債務に対する支払能力を有しております。

企業債残高対給水収益比率については、類似団体と比較し高い水準にありますが、現在まで高利率の既往債の繰上償還制度を活用するなど、その健全化にも努めてまいりましたが、今後も、新規借入の抑制を図りながら、更に経営の健全性・効率性が図られるよう取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

昭和4年に供用を開始してから、90年以上経過し、その当時整備し老朽化した施設が稼働している状況にあります。また、昭和30年代の急激な高度経済成長に対応するため、早期の水道施設整備が求められたことから、大規模に整備した施設自体も整備後50年以上を経過しており、水道施設全体の老朽化が進んでおります。

このように大量更新の時期を迎える施設の改修費用は膨大であることから、限られた財源の中で長寿命化を図りながら、効率的に更新事業を進める必要があります。

このような状況を鑑み、アセットマネジメント手法を導入し、中長期的な視点に立った財政計画のもと、将来にわたって健全な経営の維持と事業運営に努めてまいります。

全体総括

これまで拡張を行ってきた水道も、少子高齢化による人口減少や節水志向などにより水需要が減少傾向にあり、それに伴い給水収益についても減少することが予想されます。

さらに、水道施設の老朽化が進行し、計画的な更新が必要となっており、財源確保が困難となることが予想されることから、将来を見通したビジョンや財政計画の定期的なフォローアップ及び適正な水道料金の設定が重要となってきます。

今後も、事務事業の改善や更なる経費の節減に努め、健全な経営を図りながら独立採算を確保し、本市の水道事業の基本理念である「安全でおいしい水を将来にわたり安定的に供給できる水道づくり」に努めてまいります。